



倣古図研究 狩野寛信「古画写貼交屏風」(和泉市久保惣記念美術館)

千種, 佳奈

(Citation)

美術史論集, 25:177-195

(Issue Date)

2025-02-19

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/0100493568>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100493568>



研究ノート

倣古図研究 狩野寛信「古画写貼交屏風」(和泉市久保惣記念美術館)

《キーワード》江戸狩野派 狩野探幽 狩野常信 狩野寛信

千種 佳奈

はじめに

狩野融川寛信「古画写貼交屏風」(和泉市久保惣記念美術館、以下本作)⁽¹⁾(図1)は、三十六図の倣古図を貼り交ぜた六曲一双の屏風である。本作に関する言及としては河田昌之氏の作品解説があるが、一図ずつを詳細に検討した先行研究はない。そのため、本稿では各図の図様について考察を行い、具体的に分析を行う。まず、第一章では、基本的な作品情報について触れ、各図について詳細を述べる。そのうえで、本作と先行作例を比較する。それを踏まえ、第二章で本作全体の特徴を検討する。これによって寛信の倣古図様式がどのように成立したのか考察する。

一、作品概要

まずは本作の概要について見ていく。本作は各隻縦七十九・〇セ

ンチメートル、横二四四・八センチメートルの六曲一双の作品で、宋元を中心とする中国人画家三十三名と日本人画家三名に倣う図が一扇に三図ずつ貼られている。本作の裏側中央には、菊や朝顔などの草花が描かれた金地の草花図(図2)がある。この草花図の制作者については、その図様や表現が江戸時代の通有のものであるため、様式的に推定できるだけの材料が乏しい。仮に裏側も寛信が描いていた場合、本作は当初から屏風装であったと推測される。しかし、元々画帖に貼られていたものを屏風装に仕立て直した可能性も捨てきれず、今後の課題としたい。

絵師の狩野融川寛信⁽³⁾(一七七八―一八一五)は浜町狩野家第四代の狩野閑川昆信(一七四七―九二)の次男で、長男が早世したため、寛政四年(一七九二)に父の跡を継いだ。明治十七年(一八八四)に刊行された竹本石亭『石亭畫談』によれば、寛信が制作した作品の表現に対して老中が変更を命じ、それに納得しなかった寛信は帰宅途中の駕籠の中で切腹したといい、「腹切融川」と呼ばれる。さ

らに、深川木場に高樓を建て豪遊したという逸話も残る。代表作としては狩野伊川院栄信（一七七五―一八二八）と合作した「天女図」（静岡浅間神社大拝殿天井画）が挙げられる。

本作は各図に落款印章が記されている。落款は第二十九図の「藤原寛信」以外は全て「寛信」で、印章は「狩埜」朱文瓢印を押すものが十六図、「寛」朱文方印を押すものが二十図ある。本作の各図は短冊形を除けばおよそ二十〇二十五センチメートル四方に収まるほどの大きさだが、細かい描写が特徴である。以下、各図の図様について見ていく。なお、それぞれの図の番号は右隻から左隻、上から下に降るように設定している。

第一図「歸牧谿法 山水図」（図3）は、南宋元初の画家・牧谿に倣った図。本図と全く同じ図様の作例は見出せないが、描かれている舟のモチーフは、牧谿に倣う図に散見されるものである。しかし、画面半分に岸辺があり、遠景に山があるという点では狩野常信「学古帖」（ヴァージニア大学フレリリン美術館、以下常信C本）の「牧谿 山水図」（図4）と類似し、近似する図様の倣古図がいくつか存在していたと推測される。

第二図「倣土佐光信法 小野小町図」は室町時代後期に活躍した土佐光信に倣った図。本図には、狩野常信・狩野探信守政「雑画帖」（個人蔵）のうち常信「小野小町図」に描かれる小町と同じ姿態の女が描かれ、さらに、波や桜の木、花びらが散る様子などが一致することから、常信の図を縦長の画面に改めたものが本図であると推

測できる。この小町の姿態は、狩野探幽「学古図帖」（個人蔵、以下探幽G本）の「粟田法眼流 花宴図」の建物内にも見られ、一部のモチーフを取り出し合成して描く常信の倣古図制作の手法⁵によって、常信の図が制作されたと考えられる。なお、狩野大学氏信の「官女図」（日照野コレクション）に描かれる水辺に佇み扇をかざす仕草で海の方を眺める人物は、常信の図などの構図を用いたことが指摘されている⁶。

第三図「慣閻次平畫 山水図」は南宋の画家・閻次平に倣った図。閻次平に倣った山水図には多様な図様が見られるが、その大半は画面半分に山水を描き、もう半分に海と舟を描く構図を用いる。それらのモチーフは本図にも描かれるが、舟が陸地の近くに配置される点、舟に帆柱がある点が他作例と異なる。一方、この二点が本作と類似する作例として、箱書きに夏珪画を写したとある「山水図（探幽縮図）」（京都国立博物館、台帳番号A甲二七二）が挙げられる。

第四図「臨王若水體 花鳥図」（図5）は元代後期の画家・王淵に倣った図。同図様は見出せないが、鳥の羽の広げ方は狩野常信「流書手鑑」（メトロポリタン美術館、以下常信B本）の「倣王若水筆意 花鳥図」（図6）と類似し、さらに鳥がとまる植物の表現も近似している。

第五図「牧谿畫 洞庭秋月図」（図7）は第一図と同じく牧谿に倣った図。構図が類似する作例には、狩野常信「洞庭秋月図」（個人蔵）（図8）や狩野養信「倣古図」（大英博物館）の「牧谿 洞庭秋月図」がある。常信の作品は、本図の原本でもある牧谿「洞庭秋

月図」(徳川美術館)と同じ図様を描いており、寛信は本図の六角形の形状に合うように常信「洞庭秋月図」などの図様を変更したと推測される。

第六図「李迪畫 紅白芙蓉図」は南宋前期の画家・李迪に倣った図。原本の李迪「紅白芙蓉図」(東京国立博物館)で二幅に描かれる芙蓉を一図にまとめる構成は、探幽G本の「臨李迪法 紅白芙蓉図」と同様である。

第七図「馬公顯風 太公望図」(図9)は南宋前期の画家・馬公顯に倣った図。類似図様としては、探幽「太公望図」(『冷泉子爵家及其家書画器物展観入札目録』大正七年「一九一八」十二月七日)や常信B本の「倣李唐筆意 太公望図」(図10)が挙げられる。ここで挙げた探幽と常信による二図はどちらも横長の画面であり、本図ではそれを縦長の構図に変更している。また、本図では常信の図様を踏襲しながらも、倣った中国画家を変更している点が注目される。

第八図「倣羅窓法 芦雁図」は南宋末期の画家・羅窓に倣った図。同画題の作例には常信B本の「倣羅窓筆意 芦雁図」などがあるが、図様は一致しない。

第九図「祐清風 猫に菊図」は室町時代後期の狩野派の祖・狩野正信に倣った図。探幽G本の「友清法眼体 菊に猫図」が同画題の作例として挙げられるが、図様は一致しない。

第十図「徽宗皇帝法 鷹図」は、北宋第八代の皇帝・徽宗に倣った図。本図は探幽G本の「描徽宗体 白鷺図」と鷹の姿態や岩の形が類似する一方で、六角形の形状に合わせたためか、探幽G本など

に描かれる旭日は省略されている。

第十一図「倣舜拳筆意 黄蜀葵図」は宋末元初の画家・銭選に倣った図。同画題としては、探幽G本の「追舜拳遺風 黄蜀葵図」や常信「和漢流書手鑑」(個人蔵、以下常信G本)の「倣銭選筆意 黄蜀葵図」、狩野栄信・養信「唐画流書手鑑」(静岡県立美術館、以下栄信養信本)の養信「(倣銭選) 黄蜀葵図」などがあるが、同図様のものは見出せていない。

第十二図「依馬遠勢 月下吹笛図」は南宋中期の画家・馬遠に倣った図。本図に類似する作例には、常信G本の「倣馬遠筆意 月下吹笛図」がある。本図に描かれる舟上の左側の人物のうち笛を吹く男性は、第十八図の図様に見られる人物を引用したもののだろう。

第十三図「倣東破畫 墨竹図」は北宋の文人・蘇軾に倣った図。常信B本の「倣東破筆意 墨竹図」、狩野惟信「倣古名画卷」(出光美術館)の「東破筆意 墨竹図」など同画題の作例はあるが、管見の限り同図様のものは見出せない。

第十四図「習頼庵法 藻魚図」は元代の画家で、藻魚図を得意とした頼庵に倣った図。胴を捻る特徴的なポーズをとった魚の図像は探幽「鳥獸戲画等絵卷(魚類図)」(京都国立博物館)の一図や、狩野安信・益信・常信・探信守政・探雪「花鳥人物図画帖」(嬉遊会コレクション)の安信「藻魚図」にも描かれている。常信C本の「頼菴 藻魚図」は同画題の作例だが、図様は一致しない。

第十五図「趙昌筆意 桃図」は北宋の画家・趙昌に倣った図。本図と同様に器に果物を盛った図は、探幽G本の「写趙昌体制 果物

図」や常信B本の「倣趙昌筆意 果物図」、惟信「倣古名画卷」の「趙昌筆意 果物図」などがある。しかし、本図のように桃だけを描いた図は確認できず、珍しい図である。

第十六図「依王若水風 花鳥図」は第四図と同様、王淵に倣った図。本図は第二十四図に描かれた鳥の姿態や花の種類とは異なり、同図様の作例は見出せていない。

第十七図「依王元章畫 墨梅図」は元代の画家・王冕に倣った図。常信B本の「倣補之筆意 墨梅図」など同画題作例はあるが、図様は一致しない。

第十八図「臨馬遠勢 月下吹笛図」は第十二図と同じく馬遠に倣った図。常信C本の「馬遠 月下吹笛図」や養信「馬遠原本 月下移紅図（模写）」（東京国立博物館）は本図とほぼ同じ図様で、これらの図を参考にしたと考えられる。

第十九図「学信實風 柿本人麿像」は、鎌倉時代の画家・藤原信実⁸に倣った図。人麿像は倣古図によく描かれており、同図様には探幽G本の「認信真筆跡 柿本人麿像」や常信G本の「倣土佐筆意 柿本人麿像」・狩野典信・狩野惟信「名所図帖」（個人蔵）の典信「柿本人麿図」などがある。常信G本が土佐に倣ったとするのに対し、寛信は探幽G本と同じく信実⁹に倣ったとするのは興味深い。なお、徳島藩で活躍した矢野伊章榮雅（？～一八四〇）による「柿本人麿像」は、倣古図の図様が本画に利用された例で、同図様を縦長の画面に変更している。

第二十図「李迪畫 花籠図」は、李迪に倣った図。花籠を描く倣

古図は散見されるが、李迪ではなく錢選に倣った図が多く、本作にも錢選に倣った図（第三十三図）が貼られている。本図と籠の形が類似する作例として、常信B本の「倣舜举筆意 花籠図」や、常信・探信守政「雜画帖」のうち常信「花籠図」が挙げられる。

第二十一図「尋檀芝瑞跡 水辺叢竹図」は、元代の画家で墨竹を得意とした檀芝瑞に倣った図。本図の図様は、倣古図で最も人気のある図様のうちの一つであり、沢山の作例がある。本図と全く同じ図様のものは確認できないが、探幽G本の「尋檀芝瑞風 水辺叢竹図」や常信B本の「倣檀之瑞筆意 水辺叢竹図」、常信G本の「倣檀芝瑞筆意 水辺叢竹図」などが類似する。

第二十二図「依夏明遠畫 樓閣山水図」（図11）は、元代の画家・夏永に倣った図。同図様には探幽G本の「夏明遠画様 樓閣山水図」、常信B本の「倣夏明遠筆意 樓閣山水図」（図12）がある。なお、栄信養信本の養信「倣夏永 樓閣山水図」（図13）のように、典拠となる伝夏永「樓閣山水図」（東京国立博物館）の図様を忠実に写したものも存在する⁹。

第二十三図「雪窓筆意 墨蘭図」は、元代の禅僧画家・雪窓に倣った図。本図と同図様の作例は見出せないが、狩野栄信「雪窓原本 蘭竹図（模本）」（東京国立博物館）は縦長の画面に長く蘭を伸ばす点が共通する。

第二十四図「准月山画法 唐人馬図」（図14）は、元代の画家で馬の絵で有名であった任仁発に倣った図。原画は任仁発「九馬図卷」（泰定元年「一三三四」、ネルソン・アトキンス美術館）である。本図

の馬の姿態は常信B本の「做月山筆意 人馬図」(図15)と、人物の姿態は探幽・安信・常信・益信「做古名画卷」(個人蔵)の常信「(做月山) 人馬図」(図16)を反転したものと同一である。

第二十五図「呂紀風 孔雀図」は、明代中期の画家・呂紀に做った図。做古図には本図と同図様のものは見出せていない。しかし、呂紀「杏花孔雀図」(台北国立故宫博物院)の孔雀の姿態は本図を反転させたものと類似しており、このような呂紀の作品に做ったと推測される。

第二十六図「郭熙畫 牡丹図」は、北宋の画家・郭熙に做った図。同図様の作例には、栄信・養信本の栄信「(做郭熙) 牡丹図」や、惟信「做古名画卷」の「郭熙筆意 牡丹図」などがある。

第二十七図「追胡直夫勢 舟乗禪師図」は、元代の画家・胡直夫に做った図。胡直夫は日本に伝承作品が数点伝存するものの、中国では逸名の画家である。本図は舟の上で居眠りをする人物を描くが、画題は不明である。類似図様には常信C本の「胡直夫 舟乗禪師図」や常信B本の「做胡直夫筆意 舟乗禪師図」がある。常信による二図は酷似しており、本図とは人物の向きが異なる。

第二十八図「載嵩畫 牧牛図」(図17)は、唐代の画家で牛の図を得意とした載嵩に做った図。本図も做古図に度々描かれる人気の画題だが、よく用いられるのは探幽G本の「学做載嵩 牧童図」に見られる童子が馬の背に乗る図様である。本図のように童子が牛の頭を蹴る図様は珍しく、同図様は管見の限り常信B本の「做載嵩筆意 牧牛図」(図18)のみである。本図と常信B本の図は、画面手

前の岸の形も類似していることから、前者は後者の図様を円形に切り取った画面と言えるだろう。

第二十九図「李安忠畫 鶉図」は、北宋初期から南宋初期の画家・李安忠による図。狩野探幽「臨画帖」(個人蔵)の「李安忠原本 鶉図」を始め、惟信「做古名画卷」の「李安忠筆 鶉図」などほぼ同じ図様の作例が多く制作されている。本図の図様はそれらと類似するが、他作例に描かれる鶉の後ろの草花は省略されている。

第三十図「追范安仁風 蓮龜図」は、南宋末期の画家で、藻魚図を得意とした范安仁に做った図。本図は画面下部に蓮の葉と龜を、画面上部に小魚が泳ぐ様子を描く。同図様は見出せないが、蓮と龜の図様の原本は伝范安仁「蓮龜図」(MIHOMUSEUM)で、常信C本の「范安仁 蓮龜図」や惟信「做古名画卷」の「范安仁筆意 蓮龜図」と類似する。本図の画面上部はおそらく探幽G本の「慕范安仁流 藻魚図」や、常信C本の「頼菴 藻魚図」に描かれる小魚などを引用したと推測される。

第三十一図「劉俊風 唐子遊図」は、明代前期の画家・劉俊に做った図。同図様の作例は確認できないが、狩野探幽「唐人物図巻」(探幽縮図)(個人蔵¹⁰)などに類似図様を見出すことができる。

第三十二図「松田風 栗鼠図」は、元代の画家・松田に做った図。松田に做った栗鼠図は探幽G本の「准用田画制 栗鼠図」や常信C本の「用田 栗鼠図」など複数の作例があるが、本図と同図様のものは確認できない。

第三十三図「描舜拳法 花籠図」は、錢選に做った図。本図の籠

は第二十図とは形が異なっており、珍しい図様である。

第三十四図「慣徐熙畫 蓮鷺図」(図19)は、五代十国の南唐の画家・徐熙に倣った図。蓮鷺図は探幽G本の「慕徐熙風 芦鷺図」(図20)を始め、多数の作例が残る人気の画題である。本図は探幽G本の図に描かれる三羽の鷺のうち一羽を取り出したもの。第二図で述べたように、基本図様のモチーフを分解・合成することでバリエーションを制作する手法を常信が用いていたことが指摘されている^[1]。本図は常信がこの手法を用いて制作した常信B本の「倣徐熙筆意 蓮鷺図」(図21)を参照して描かれたと考えられる。

第三十五図「促楊補之添 墨梅図」は、南宋の画家 楊補之に倣った図。同じく楊補之に倣った墨梅図としては狩野探幽「倣古画図巻」(宮崎県立美術館)の「謄楊補之痕 墨梅図」や、常信B本の「倣補之筆意 墨梅図」、常信C本の「補之 墨梅図」などがあるものの、それぞれ枝の曲がり方や花の描法が異なり、同図様は見出せない。

第三十六図「臨摹大年畫 山水図」は、北宋の画家・趙令穰に倣った山水図。狩野安信「倣古名画巻」(個人蔵)の「学大年法 山水図」など趙令穰に倣った山水図は散見されるが、本図と同図様のものは確認できない。

二、本作の特徴

前章では、本作の各図について画題と図様の典拠に注目し、分析した。それを踏まえ、本章では本作の特徴を考察する。以下では、

三つの観点に焦点をあて本作の特徴を述べる。

河田氏が指摘するように、本作は各図の形状が六角形や八角形、円形など様々であることがまずは注目される。多くの倣古図は画巻や画帖の形式に仕立てられ、各図の形状は統一されており、本作を含め、異なる形状の図を貼り合わせる倣古図はそれほど多くはない。例えば、画帖や画巻に様々な形状の倣古図を貼り交ぜた常信C本や惟信「倣古名画巻」が寛信以前の作品として挙げられる。寛信より後には、狩野中信「倣古図」(大英博物館)や養信「倣古図」など、異なる形状の倣古図を一幅の掛軸とした作品も見受けられる。様々な形状の図を貼り合わせた倣古図の中で、画帖や画巻などに仕立てられた常信C本や「倣古名画巻」から、同一画面に様々な形の倣古図をとり合わせて描きこむ中信「倣古図」や養信「倣古図」に至る過渡期の様相を示す作品として、本作を位置づけることができる^[2]と考えられる。

また、貼り交ぜられた図のうち、寛信が倣った画家や描かれた画題が重複する点が注目される。牧谿、馬遠、王淵に倣った図は二図ずつあるが、同様の画題を描いており、異なる中国画家に倣った図でも、墨梅図、花籠図は同じ画題で二図ずつ描かれている。例えば、墨梅を描いた図は王冕と楊補之に倣った図(第十七図、第三十五図)があるが、第十七図は短冊形の図に上から枝を垂らす梅を描き、花びらが風に舞う様子を表すのに対して、第三十五図は円形の図に下から力強く生える梅を描いている。また、牧谿に倣った二図(第一図、第五図)は画題が異なるもののモチーフは類似しており、図の

形状に合わせて構図を変えた結果と言えるだろう。短冊形の第七図が横長の常信B本の図と類似することも、寛信が各図の形状に合わせて構図を変えていたことを端的に示す事例と考えられる。

そして、最も重要な特徴として、本作の図様は常信の做古図から大きな影響を受けていると考えられる点を挙げたい。前章で述べたように、本作は常信の做古図と同図または類似する図が多い。例えば、第四図、第二十七図は常信の図の全体あるいは一部を用いたもので、第十八図、第二十八図は常信の図の構図を本作の図の形状に合わせて変更した例である。この四点の例からも寛信が常信の做古図をよく学んだことは明らかであろう。また、前述したように第三十四図と同図様の常信B本の図は、探幽G本の図をもとにモチーフの分解・合成を行い制作されている。そのバリエーション制作の手法と同じ方法で制作されたと推定される図が本作の第二十四図、第三十図である。両図は常信が制作した二つの做古図の図像を合成したものと推測され、寛信は図様だけでなく常信が用いていた制作手法も取り入れていたと考えられるだろう。

三、まとめ

本稿では、本作の分析を行い、做古図としての特徴について考察した。その結果、寛信は常信の做古図様式を参照しつつ自らの做古図様式を確立したことが窺われる。寛信が当主を務めた浜町狩野家は木挽町狩野家の常信の息子であった狩野随川岑信（一六六二～

一七〇八）を初代としており、両者の家の繋がりは強固だった¹²。本作は、常信の做古図様式が浜町狩野家に影響を与えたこと、さらには十八世紀には寛信によってそれが発展させられたことを示している。今後、常信と寛信の關係に注目しつつ、本作の位置付けをより明らかにしていきたい。

註

- (1) 本稿最終頁に表を掲載し、それぞれの図について、材質技法、印章を記した。
- (2) 河田昌之、狩野寛信「古画写貼交屏風」作品解説（和泉市久保惣記念美術館編『増訂 和泉市久保惣記念美術館 藏品選集』一九九〇年）。
- (3) 寛信については以下を参照。
 - ・久良亮「ハラキリ融川」（『美術之日本』第三五号、一九一一年）。
 - ・田中敏雄「静岡浅間神社の障壁画―狩野栄信・寛信―」（『日本美術工芸』第六四八号、一九九二年）。
 - ・野田麻美、狩野寛信 画家解説、同氏編『幕末狩野派展』図録（静岡県立美術館、二〇一八年）。
 - ・野田麻美「巨大組織・江戸狩野派の二五〇年―奥絵師と表絵師に関する諸問題」（同氏編『忘れられた江戸絵画史の本流―江戸狩野派の二五〇年』展図録、静岡県立美術館、二〇二一年）。
 - ・門脇むつみ「甲子大黒天信仰と遊び戯れる六十五人の大黒天」（『麻布一本松狩野家資料に関する画題の国際化のための基盤研究』編集『粉本画像を読み解く―麻布一本松狩野家資料への多角的アプローチ』大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国文学研究資料館発行、二〇二四年）。
- (4) 以後、常信C本などの略称は、下記論文掲載の関連作品一覧表に則って

表記する。一覧表に略称の記載がない場合は筆者による。

野田麻美「江戸狩野派の〈倣古図〉をめぐる一考察―狩野探幽筆『学古図帖』を中心に」同氏編『徳川の平和―二五〇年の美と叡智』展図録、静岡県立美術館、二〇一六年。

(5) 野田氏は基本図様をもとに、モチーフを分解、合成することによって様々なバリエーションを作る傾向が常信にあることを指摘している。野田氏、前掲「江戸狩野派の〈倣古図〉をめぐる一考察」を参照。

(6) 野田麻美、狩野大学氏信「官女図」作品解説、前掲『忘れられた江戸絵画史の本流』。

(7) 矢野伊章栄雅は徳島藩に使えた矢野家の四代目を継いだ人物である。文化六年（一八〇九）から木挽町狩野家第八代の狩野伊川院栄信に師事しており、「伊」と「栄」の字を拝領している。栄雅と彼の「柿本人麿像」については、徳島県立博物館編「徳島藩絵師のすがお―伝えられた絵手本や写しから―」展図録（徳島県立博物館、二〇一六年）を参照。

(8) 野田氏、前掲「江戸狩野派の〈倣古図〉をめぐる一考察」を参照。

(9) 野田麻美、狩野伊川院栄信・狩野晴川院養信「唐画流書手鑑」作品解説、同氏編『江戸狩野派の古典学習―その基盤と広がり』展図録（静岡県立美術館、二〇二一年）。

(10) 薮本莊五郎『探幽縮図』（文人画研究所、一九八六年）の六十四頁の図を参照。

(11) 註（5）参照。

(12) 野田氏、前掲「巨大組織・江戸狩野派の二五〇年」を参照。

【図版出典】

・図1…和泉市久保惣記念美術館編『増訂 和泉市久保惣記念美術館 藏品選集』一九九〇年。

・図2、3、5、7、8、9、11、14、17、19…筆者撮影

・図4…ヴァージニア大学フレイリン美術館

(<https://collection.museum.virginia.edu/objects-1/info?query=mfs%2520any%2520%2522Kano%2522&page=1>)

・図6、10、12、15、18、21…メトロポリタン美術館

(<https://www.metmuseum.org/art/collection/search/74462>)

・図13…野田麻美編『江戸狩野派の古典学習―その基盤と広がり』展図録、静岡県立美術館、二〇二一年。

・図16、20…野田麻美編『徳川の平和―二五〇年の美と叡智』展図録、静岡県立美術館、二〇一六年。

千種佳奈（ちぐさ・かな）

二〇一三年 神戸大学文学部卒業

二〇一三年～ 神戸大学大学院人文学研究科博士課程前期課程在籍

二〇二四年～ 京都府京都文化博物館臨時職員（学芸補助・産休代替）

本作の図様一覧

No.	做った 画家名	画題	材質技法	寸法 (縦×横)	各図の形状	印章	類似図様の 常信の倣古図
1	牧谿	山水図	絹本墨画	20.7×19.4	四角形	「狩埜」朱文瓢印	常信 C 本*
2	土佐光信	小野小町図	絹本著色	33.1×8.0	短冊形	「寛」朱文方印	常信探信本*
3	閻次平	山水図	絹本墨画淡彩	19.3×27.9	団扇形	「寛」朱文方印	
4	王淵	花鳥図	絹本著色	21.1×28.8	角の欠けた長方形	「狩埜」朱文瓢印	常信 B 本*
5	牧谿	洞庭秋月図	絹本墨画	24.4×21.2	六角形	「寛」朱文方印	◆
6	李迪	紅白芙蓉図	絹本著色	22.4×22.4	円形	「寛」朱文方印	
7	馬公顯	太公望図	絹本著色	33.0×8.0	短冊形	「狩埜」朱文瓢印	常信 B 本
8	蘿窓	芦雁図	絹本墨画	19.4×28.0	団扇形	「寛」朱文方印	常信 B 本#
9	狩野正信	猫に菊図	絹本著色	22.6×22.5	八角形	「寛」朱文方印	
10	徹宗	鷹図	絹本著色	24.4×21.1	六角形	「狩埜」朱文瓢印	
11	銭選	黄蜀葵図	絹本著色	20.6×19.4	四角形	「狩埜」朱文瓢印	常信 G 本#
12	馬遠	月下吹笛図	絹本墨画	21.1×28.9	角の欠けた長方形	「寛」朱文方印	常信 G 本
13	蘇軾	墨竹図	絹本墨画	22.5×22.5	八角形	「狩埜」朱文瓢印	常信 B 本#
14	頼庵	藻魚図	絹本墨画淡彩	22.4×22.4	円形	「寛」朱文方印	常信 C 本#
15	趙昌	桃図	絹本著色	24.3×21.1	六角形	「寛」朱文方印	
16	王淵	花鳥図	絹本著色	19.5×28.0	団扇形	「寛」朱文方印	
17	王冕	墨梅図	絹本墨画	32.8×7.9	短冊形	「狩埜」朱文瓢印	常信 B 本#
18	馬遠	月下吹笛図	絹本墨画	20.6×19.4	四角形	「狩埜」朱文瓢印	常信 C 本
19	藤原信実	柿本麻呂図	絹本著色	21.1×28.7	角の欠けた長方形	「狩埜」朱文瓢印	常信 G 本
20	李迪	花籠図	絹本著色	22.5×22.9	八角形	「狩埜」朱文瓢印	常信 B 本* 常信探信本*
21	檀芝瑞	水辺叢竹図	絹本墨画	20.8×19.3	四角形	「狩埜」朱文瓢印	常信 B 本 常信 G 本
22	夏永	楼閣山水図	絹本著色	22.5×22.5	円形	「寛」朱文方印	常信 B 本
23	雪窓	墨蘭図	絹本墨画	33.0×8.0	短冊形	「狩埜」朱文瓢印	
24	任仁発	唐人馬図	絹本著色	24.3×21.0	六角形	「寛」朱文方印	常信 B 本* 常信 E 本*
25	呂紀	孔雀図	絹本著色	19.5×28.1	団扇形	「寛」朱文方印	
26	郭熙	牡丹図	絹本著色	20.7×19.3	四角形	「狩埜」朱文瓢印	
27	胡直夫	舟乗禪師図	絹本墨画	22.5×22.4	八角形	「寛」朱文方印	常信 B 本 常信 C 本
28	載嵩	牧牛図	絹本墨画	22.5×22.5	円形	「寛」朱文方印	常信 B 本
29	李安忠	鶉図	絹本著色	21.0×28.7	角の欠けた長方形	「狩埜」朱文瓢印	
30	范安仁	蓮亀図	絹本墨画	32.9×7.9	短冊形	「寛」朱文方印	常信 C 本*
31	劉俊	唐子遊図	絹本著色	22.5×22.5	八角形	「寛」朱文方印	
32	松田	栗鼠図	絹本墨画	24.3×21.1	六角形	「寛」朱文方印	常信 C 本#
33	銭選	花籠図	絹本著色	19.5×28.0	団扇形	「狩埜」朱文瓢印	
34	徐熙	蓮鷺図	絹本著色	20.8×19.3	四角形	「狩埜」朱文瓢印	常信 B 本
35	楊補之	墨梅図	絹本墨画	22.4×22.4	円形	「寛」朱文方印	常信 C 本#
36	趙令穰	山水図	絹本墨画淡彩	21.1×28.7	角の欠けた長方形	「寛」朱文方印	

※表に記載した略称・記号の意味は以下の通り。

常信 B 本＝常信「流書手鑑」(メトロポリタン美術館)

常信 C 本＝常信「学古帖」(ヴァージニア大学フレーリン美術館)

常信 E 本＝探幽・安信・常信・益信「倣古名画巻」(個人蔵)のうち常信が制作した巻

常信 G 本＝常信「和漢流書手鑑」(個人蔵)

常信探信本＝常信・探信守政「雑画帖」(個人蔵)

◆＝常信「洞庭秋月図」(個人蔵)(原本は牧谿「洞庭秋月図」[徳川美術館])

*＝一部のモチーフのみ類似するもの

#＝画題のみ類似するもの

※本稿で述べた常信からの影響関係を明示するために、類似する倣古図のうち常信によるもののみを記入した。

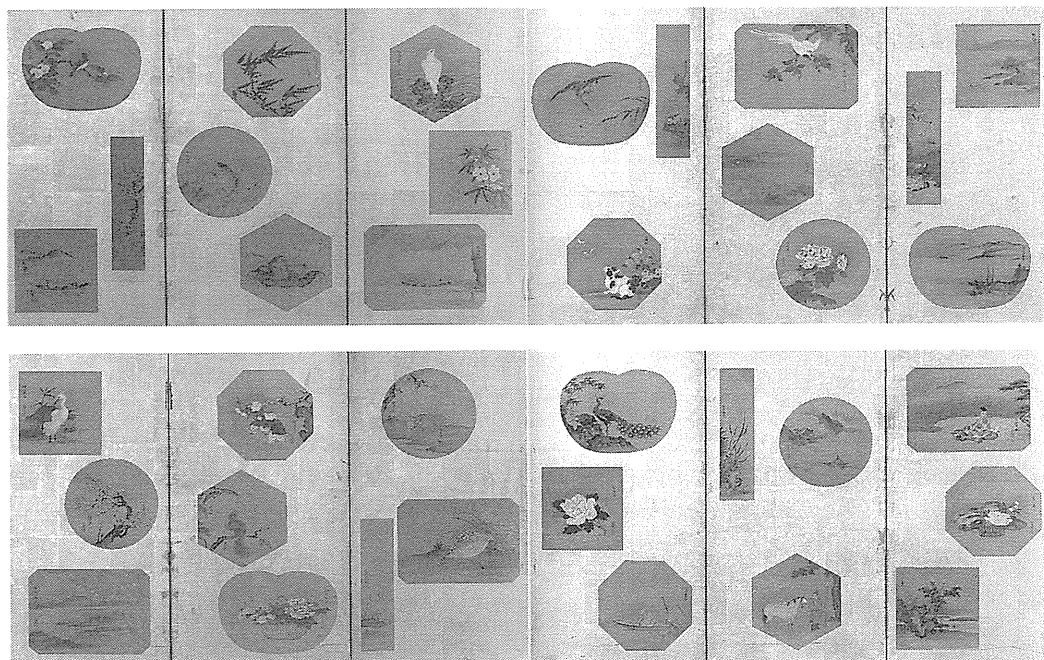


図1 狩野寛信「古画写貼交屏風」(和泉市久保惣記念美術館)

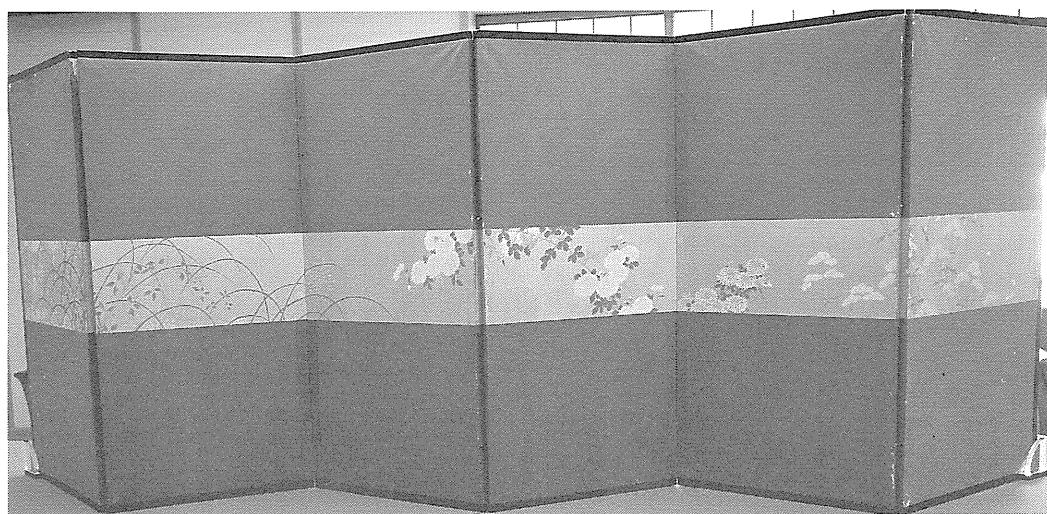


図2 狩野寛信「古画写貼交屏風」(左隻裏側)(和泉市久保惣記念美術館)



図3 狩野寛信「歸牧谿洽 山水図」(「古画写貼交屏風」〔和泉市久保惣記念美術館〕のうち)



図4 狩野常信「牧谿 山水図」(「学古帖」〔ヴァージニア大学フレリン美術館〕のうち) ©The Fralin Museum of Art University of Virginia



図5 狩野寛信「臨王若水體 花鳥図」(「古画写貼交屏風」〔和泉市久保惣記念美術館〕のうち)



図6 狩野常信「臨王若水筆意 花鳥図」(「流書手鑑」〔メトロポリタン美術館〕のうち)



図7 狩野寛信「牧谿畫 洞庭秋月図」(「古画写貼交屏風」
〔和泉市久保惣記念美術館〕のうち)



図8 狩野常信「洞庭秋月図」(個人蔵)



図 10 狩野常信「倣李唐筆意 太公望図」(「流書手鑑」〔メトロポリタン美術館〕のうち)

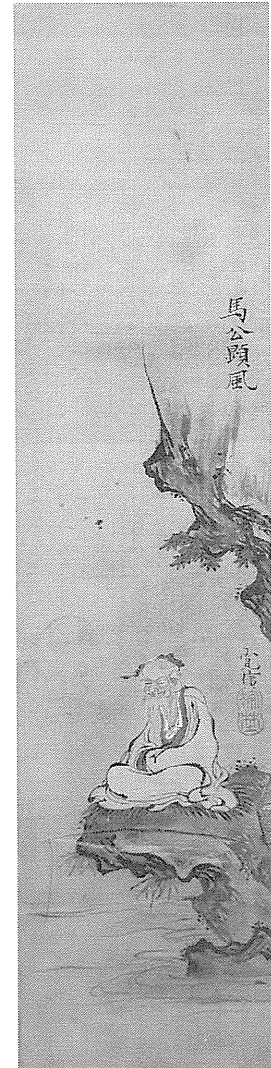


図 9 狩野寛信「馬公頤風太公望図」(「古画写貼交屏風」〔和泉市久保惣記念美術館〕のうち)



図 11 狩野寛信「依夏明遠畫 樓閣山水図」(「古画写貼交屏風」〔和泉市久保惣記念美術館〕のうち)



図 12 狩野常信「倣夏明遠筆意 樓閣山水図」(「流書手鑑」〔メトロポリタン美術館〕のうち)



図 13 狩野養信「(倣夏永) 樓閣山水図」(狩野栄信・養信「唐画流書手鑑」〔静岡県立美術館〕のうち)



図 14 狩野寛信「准月山画法 唐人馬図」(「古画写貼交屏風」
〔和泉市久保惣記念美術館〕のうち)



図 15 狩野常信「做月山筆意 人馬図」(「流書手鑑」〔メトロポリタン美術館〕のうち)



図 16 狩野常信「(倣月山) 人馬図」(狩野探幽・安信・常信・益信「倣古名画卷」〔個人蔵〕のうち)

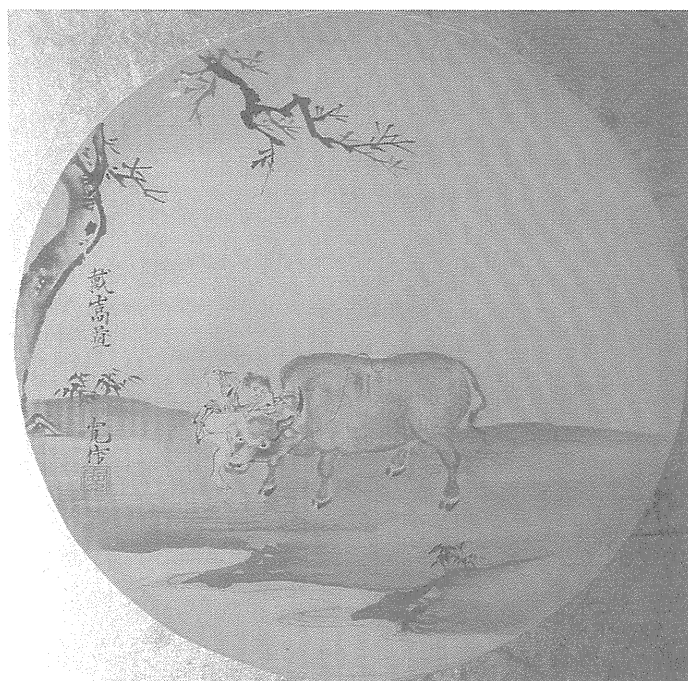


図 17 狩野寛信「載嵩書 牧牛図」(「古画写貼交屏風」〔和泉市久保惣記念美術館〕のうち)



図 18 狩野常信「倣載嵩筆意 牧牛図」(「流書手鑑」〔メトロポリタン美術館〕のうち)



図 19 狩野寛信「慣徐熙畫 蓮鷺図」(「古画写貼交屏風」〔和泉市久保惣記念美術館〕のうち)

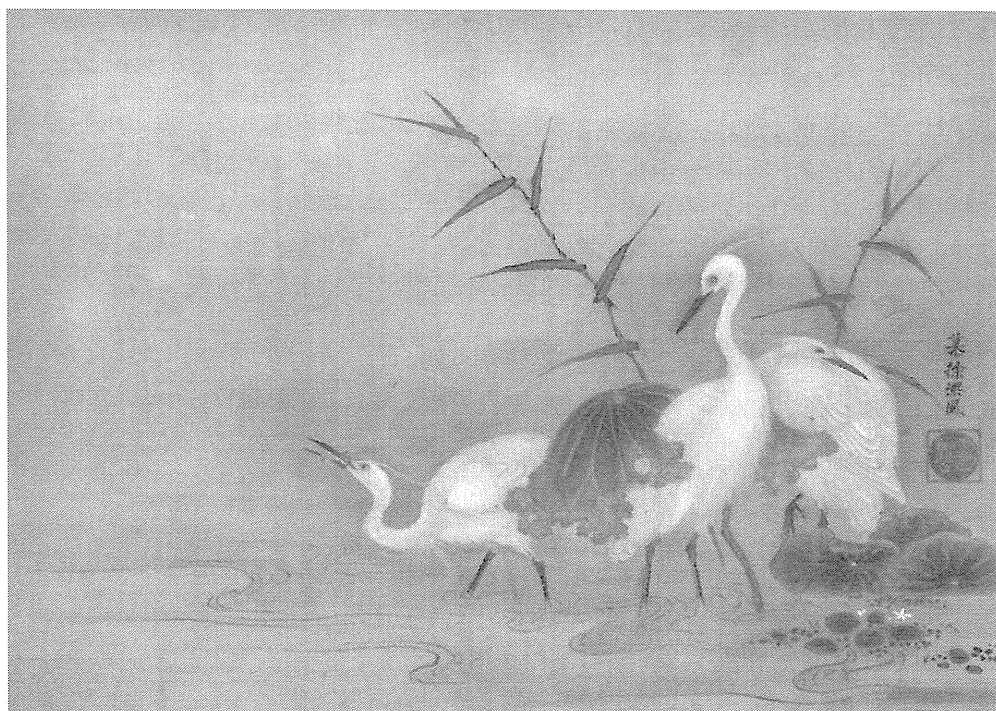


図 20 狩野探幽「慕徐熙風 芦鷺図」(「学古図帖」〔個人蔵〕のうち)



図 21 狩野常信「倣徐熙筆意 蓮鷺図」(「流書手鑑」〔メトロポリタン美術館〕のうち)